



香川県教職員連盟機関誌
発行所：香川県教職員連盟
発行者：北村 顕吾

〒760-0004
高松市西宝町2丁目6番40号
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

新しい時代の教育の在り方と「教職員の働き方改革」推進に向けて

六月三日(水) 十五時より香川県庁北館三階三〇三号会議室において、香川県教育委員会と総括交渉を行った。香教連からは、北村顕吾委員長、高木俊彦副委員長(城南小)、村松宏晃事務局長(太田小)、相原順之介人対部長(富熊小)、山田昭広執行委員(土庄中)の五名が出席した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用やアルコール消毒、ソーシャルディスタンスを保持する環境等においての交渉となった。重点項目として、①小学校においてより充実した教育活動を行うために、教科担任制の導入を推進すること②「GIGAスクール構想」の早期実現に向けて、確実に環境整備を図ること③学校事務の負担を軽減し、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、ICTによる業務の効率化を図るとともに、指導要録の電子化等を含め、県下で共通化された業務に取り組むことができるようにすることや、事務機器の充実も促進するよう、市町教育委員会と連携して早急に環境整備を図ること④教職員の超過勤務の縮減に向けて、「教職員の働き方改革プラン」に示されている学校運営の改革と意識改革が早急に実現するために、各学校で具体的な業務改善、意識改革が図られるよう、市町教育委員会や所属長に積極的に働きかけること⑤学校における教職員の働き方改革を推進していくために、改正給特法の成立に伴い、一年単位の変形労働時間制の導入に向けて、早急に検討すること等を要望した。夏季休業中等、長期休業中において児童生徒の登校を伴わない場合の在宅勤務の実施や、職員会議や研修等もオンラインを活用したものに実施ができたこと等、緊急事態宣言が出力された期間に実際に現場で取り組めた事例をもとに、具体的な働き方改革についての提案も行った。



原田智義義務教育課課長様、白井道代総務課課長様からは、各重点項目について昨年度までの状況や今年度の方向性等、具体的に回答をいただくことができた。終わりに工代祐司教育長様より、「新型コロナウイルスウィルス感染症の影響のみならず、今年度から小学校では新学習指導要領の本格実施やICT環境整備の前倒しによる推進等、様々な対策を同時にかつ迅速に進めなければならぬ状況である。またそれらを実現していかななくてはならない。今後も貴重な現場の意見を挙げていただき、先生方が現場で大変御苦労されている今日、現場の声をしっかり聴かせていただき、よりよい教育環境づくりを推進していきたい。」とお言葉をいただいた。



香教連は、結成四十六年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力をもつ、県内最大の教職員団体です。

令和二年度 本部執行役員

毎月10日発行 定価1部50円
(年間1,000円 送料も)
会員の購読費は会費の中に含む



香教連は、結成四十六年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力をもつ、県内最大の教職員団体です。



委員長 (専従)
北村 顕吾 (丸亀)



副委員長 (高松)
井上 真登 (高松)



副委員長 (三観)
合田 雄次 (三観)



副委員長 (東京専従)
原井 和彦 (大川)



副委員長 (丸亀)
高木 俊彦 (丸亀)



事務局長 (高松)
村松 宏晃 (高松)

執行委員 (単組選出)

- 那須 将弘 (高松)
- 谷 真里 (丸亀)
- 前田 朋寛 (坂出)
- 朝日 洋一 (大川)
- 山田 昭広 (小豆)
- 池田 道雄 (木田)
- 真鍋 貴知 (綾歌)
- 末久由美子 (仲善)
- 貞廣有里子 (三観)

事務局次長

- 黒川 幸宣 (高松)
- 中川 照美 (丸亀)
- 西村 博文 (仲善)
- 女性職員部長 松本 美香 (木田)
- 養護教諭部長 土山 由美 (三観)
- 人事対策部長 相原順之介 (丸亀)
- 採用試験対策部長 江口 善喬 (小豆)
- 幼児教育部長 木下るみ子 (高松)

一年間ごきようごお願ひいたします。

温故知新

今年度も会員の皆様の御信任をいただき、委員長の大役二年目を務めさせていただきました北村顕吾です。三十年より事務局専従が私一名となり、御迷惑・御不便をおかけしながらの業務となっておりますが、先生方や各関係の方々からのあたたかい御支援・御協力のもと務めることができております。深く感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今、困難に直面しております。このような状況においても、新時代を担う子どもたちの健康・安全や学力等を保障していくために、そしてそれを支えている保護者や先生方のために、新しい時代を見据えた教育環境整備の早期実現に向けて尽力してまいります。また、教職員の働き方改革や処遇改善、教育専門職としての充実した研修会の提供等につきましても努めてまいります。より一層の御支援・御協力を賜りますよう、本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

①前向きな質問から始める

朝の会や朝のホームルームでは、次のような質問を子どもたちにしてみたい。『今日はこれがしつかりできたぞ!』と充実感を味わうには、何をすればいいのかな? 『今日一日楽しかったぞ!』 『自分が癒されたようにすればいいのだろうか?』 『自分が癒された紹介できるかな。』等、前向きな質問をするのです。毎日です。最初は先生が自分自身のことを子どもたちに話して、質問を投げかけてみるのもいいですね。朝のスタートでこうした言葉かけをすることによって、その一日を教師も子どもも前向きに過ごすことができるようになります。

②質問で行動化を促す

朝一番に、わくわくしてくるような質問を投げかけると、その一日が何となく楽しく身軽でワクワク、ウキウキした気分で行くことが出来ます。ポイントは、行動に変化が見られるようになるまで続けることです。朝、子どもや教室の空気が落ち込んでいても、このような質問を習慣化させることによって必ず回復してきます。子どもたちの自己肯定感が高まってくるのです。

朝から「否定」で始まる学級。そんな日はなかったでしょうか。「朝からぼんやりしている人がいます。」「当たり前になっていませんか。朝から元気が出なくなる言葉、後ろ向きな話が始まっています。子どもたちも教師もいつまでも自己肯定感が高まりませんし、良い学級にもならないでしょう。(願)